第8回 雪明・新潟眼科フォーラム

（日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業No.25182）

Yukiakari・ Niigata Ophthalmology Forum

日　　時：令和3年2月21日（日）　9:00～12:35

開 催 方 法：Zoomを使用したweb開催

サテライト会場：「ホテル日航新潟」4階「朱鷺」（50席）
〒950-0078 新潟市中央区万代島5番1号　TEL025-240-1888

専門医単位：Web、サテライト会場いずれも2単位

会　　費：Web参加：医師 2,000円　レジデント・視能訓練士 無料
サテライト会場参加：医師 2,000円　レジデント・視能訓練士 1,000円

※当初ハイブリッド方式での開催を予定しておりましたが、現状を鑑みて上記開催と致しました。

プログラム　Program

9:00～　開会の挨拶　新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野　教授　福地 健郎先生

【第一部】 座長：新潟大学医歯学総合病院 病院准教授　松田 英伸先生

9:05～9:55
≪1）斜視・弱視≫
『ケースレポートから考える斜視・小児眼科診療』
順天堂大学医学部眼科学講座　准教授　根岸 貴志先生

9:55～10:45
≪2）ぶどう膜≫
『ぶどう膜炎診断のコツと治療のコツ』
大阪大学大学院医学系研究科視覚情報制御学　寄附講座准教授　丸山 和一先生

10:45～10:55　（休　憩）

【第二部】 座長：新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 教授　福地 健郎先生

10:55～11:45
≪3）網膜・硝子体≫
『知っておきたい臨床ERG』
埼玉医科大学医学部眼科学　教授　篠田 啓先生

11:45～12:35
≪4）緑内障≫
『落屑緑内障について』
島根大学医学部眼科学講座　教授　谷戸 正樹先生

12:35～　閉会の挨拶　新潟大学医歯学総合病院　病院准教授　長谷部 日先生

［共催］雪明・新潟眼科フォーラム / 参天製薬株式会社　［後援］新潟県眼科医会 / 新潟市眼科医会

第8回　Yukiakari・ Niigata Ophthalmology Forum

雪明・新潟眼科フォーラム

日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業　No.25182

YUKIAKARI

開催日時
令和3年 2月21日(日)　9:00～12:35

開催方法　Zoomを使用したweb開催

サテライト会場　「ホテル日航新潟」4階「朱鷺」（50席）
〒950-0078　新潟市中央区万代島5番1号　TEL025-240-1888

事務局
新潟大学大学院医歯学総合研究科　眼科学分野　事務局内
雪明・新潟眼科フォーラム事務局　TEL：025-227-2296　FAX：025-227-0785
〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757

［共催］雪明・新潟眼科フォーラム / 参天製薬株式会社　［後援］新潟県眼科医会 / 新潟市眼科医会

第8回 雪明・新潟眼科フォーラム

ごあいさつ

新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野　教授
福地 健郎

謹啓

2014年2月に始まった雪明新潟眼科フォーラムは今回で第8回を数えることになりました。昨年の第7回はコロナ禍による社会活動、学会活動停止の直前に、ほぼ通常の形式で開催されました。それが、実は平和で豊かの象徴であったことを実感する今日この頃です。Web学会を経験し、遠隔参加できるメリットは確かながらも、学会の基本はLive、Realityと一期一会ということを改めて認識しました。現時点で、第8回雪明新潟眼科フォーラムはWeb配信＋一部、現地にて視聴の形式での開催を予定し準備を進めています。感染対策を講じ、演者は例年の6名から4名に、午前で終了のスケジュールといたしました。4名とはいえ、今回も各学会でご活躍の若手リーダーの先生方にお集まりいただくことができ、有意義なご講演を拝聴できるものと大いに期待しています。このような時だからこそ、一度立ち止まって自らの眼科を再点検、自己学習、自己研鑽、今後のための再構築をめざすべきなのではないかと思います。この会が、これまでとはまた違った意味で、皆様の一助になることを期待しております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。よろしくお願いいたします。

謹白

ケースレポートから考える斜視・小児眼科診療

順天堂大学医学部眼科学講座　准教授　根岸 貴志 先生

略歴

2001年3月	信州大学医学部医学科卒業
2001年4月	順天堂大学医学部眼科
2005年1月	埼玉県立小児医療センター眼科
2007年4月	順天堂大学大学院医学研究科　眼科学
2008年9月	浜松医科大学眼科学教室（国内留学）
2011年1月	Indiana大学　小児眼科・斜視部門 International Fellow（IN, USA）
5月	Great Ormond Street Hospital for Children（London, UK）
6月	Singapore National Eye Centre, International Fellow
2011年3月	順天堂大学大学院医学研究科　眼科学修了　医学博士学位授与
2011年10月	順天堂大学医学部眼科学講座　助教
2015年3月	順天堂大学医学部眼科学講座　准教授～現職
2016年6月	日本弱視斜視学会　理事 現在に至る

斜視や小児は一般診療でもよく遭遇する機会が多いものの、検査が難しいことからなかなかはっきりした診療方針の決定をためらいがちになりやすいです。診療所で斜視・小児に比較的容易に行うことの出来る検査の中から、一般眼科医の先生方が専門診療施設に紹介する根拠となる有益な臨床情報を列挙します。ケースレポートを提示しながら、紹介元の先生のお考えと専門施設での治療方針とをわかりやすく比較し、今後の日常診療にお役立て頂けるような内容を解説いたします。一般眼科医の先生のみならず、検査を行うORTさんにも是非ご一緒にお考え頂きたい症例をたくさん提示いたします。今後斜視・小児を診察した際にすぐ役立つような情報をご紹介いたします。

知っておきたい臨床ERG

埼玉医科大学医学部眼科学　教授　篠田 啓 先生

略歴

1990年	慶應義塾大学卒業
1996年	杏林大学国内留学 樋田哲夫先生平形明人先生に師事
2001年	南ドイツチュービンゲン大学留学 人工網膜研究に参加
2004年	慶應義塾大学眼科医局長 坪ちゃんのごきげん医局に帰室
2005年	国立病院機構東京医療センター眼科医長 三宅養三先生に師事
2007年	大分大学医学部眼科准教授
2009年	帝京大学医学部眼科准教授
2013年	帝京大学医学部眼科教授
2016年	埼玉医科大学医学部眼科教授 現在に至る

臨床眼科学の診断・治療の発達はめざましいものがあります。網膜硝子体分野では特に生物学的製剤と手術治療の進歩、OCTの出現、遺伝学的アプローチの発展により診療が大きく進歩しました。これに並行して網膜・黄斑の生理と病態について深い理解が得られ、臨床ERGの新たな重要性が出てきています。今回、ERGの基本、全視野及び局所ERGの特性と利用法を確認し、ERGを用いて手術治療の評価を行った自験例を紹介させていただきます。ERGはちょっととっつきにくい、と感じていらっしゃる先生にも親近感を持っていただけるように努力したいと思います。

ぶどう膜炎診断のコツと治療のコツ

大阪大学大学院医学系研究科視覚情報制御学　寄附講座准教授　丸山 和一 先生

略歴

1998年3月	金沢医科大学医学部医学科卒業
1998年5月	京都赤十字第二病院　研修医・修練医
2003年4月	米国Harvard Medical School Department of Ophthalmology, Schepens Eye Research Institute, Postdoctoral fellow
2006年3月	京都府立医科大学大学院医学研究科博士課程修了　博士（医学）取得
2009年4月	京都府立与謝の海病院（現：京都府立医科大学附属北部医療センター）眼科医長
2012年9月	京都府立医科大学　助教
2012年10月	東北大学病院医科診療部門眼科　講師
2017年4月	大阪大学大学院医学系研究科視覚先端医学寄附講座　寄附講座准教授
2020年4月	大阪大学大学院医学系研究科視覚情報制御学　寄附講座准教授（現在に至る）

ぶどう膜炎は、「日常診療で来てほしくない疾患の一つ！」「診てもわからない・・・」「ぶどう膜炎外来には、難しい患者さんばかり・・・」など敬遠される疾患です。では、実際のところ、本当に診てもわからない、難しい患者さんばかりなのでしょうか？

緑内障の視神経乳頭の特徴的な形態のように、ぶどう膜炎にも疾患によって顔（特徴）があります。その顔をしっかりと覚えておくと、診断はそれほど難しくなくなります。我々ぶどう膜炎専門医は疾患の顔をよく覚え、顔を判定し、顔が変化する前に適切な治療を行うことが使命であると考えています。

本講演では、それぞれのぶどう膜炎の顔について特徴を挙げ、診断するためのコツや治療法について症例をもとに皆様と考えたいと思います。

落屑緑内障について

島根大学医学部眼科学講座　教授　谷戸 正樹 先生

略歴

1996年	島根医科大学医学部卒業
1996年	島根医科大学医学部眼科助手
1999年	京都大学大学院医学研究科特別研究学生
2003年	日本学術振興会特別研究員・京都大学ウイルス研究所研究員
2004年	日本学術振興会特別研究員・オクラホマ大学ヘルスサイエンスセンター眼科研究員
2006年	島根大学医学部眼科講師
2014年	松江赤十字病院眼科部長
2018年	島根大学眼科学講座教授 現在に至る

落屑緑内障は、続発緑内障のうち、原因を特定できる病型としては最も頻度が高い。偽落屑物質の沈着は、遺伝的素因を背景に加齢により顕在化するため、高齢化が進む本邦では今後さらに患者数の増加が見込まれる。しばしば高度の眼圧上昇をきたし、進行が早い一方で、高齢者に多くまた進行度に左右差があるため自覚症状が出づらく、発見が遅れることも少なくない。眼圧上昇の見られない偽落屑症候群をどの程度の頻度で経過観察をするのか、早期の白内障手術はチン氏帯の保護に有効か、目標眼圧の設定は原発開放隅角緑内障と同じで良いのか、といった点について明確なコンセンサスは無い。本疾患に関する臨床上の問題点を中心に話題を提供したい。